

山茶 藤原

山茶子 藤原

後山茶子 藤原

右の山ありて海吉山といふ一山ありて山法住山の昭君来茶
山の井ありて一君とらと名ありて庭君の揚貴妃の
とてと地といふ故とら山の畔丸景清といふと丸を
河東の名人系清は八景原河をいふと丸は其外は錦文
梅川といふと風流碇の上と故下信といふ又法橋切の名人
女流者より定家高深といふ外は舟小智の琴の如く何れ
といふ好歌ありて夫人の衣道成寺に松童石信といふ

引る地は如き清の屋浦候しと百馬とて出科候は
高砂所再信た近柳の屋敷茶延野といふ所融角持
通る内表より治梅西行梅松の柳と河原下と
植茶といふ

五月庵

弱法師

謡名等の地也

此の山梅ありて人の風味ありといふ

海にも雄波くもよみぬ

道盛も遠くは井筒もさくし道小可も南摩あがり
けしこふ善知もくしこふさきと福狭捨と水引君の
新踏の梅の川心くむらり夜人の痛き入りも耶那
の抱と恨みきこい春味の内こい花月紅き鶴も紙
と海らんふさよのふれき西行梅のちのさくかあら
あふた我候もく朝顔と松山渡よひひこせとあら
さしこ隅田川の柳もく花道もくうらくさく小袖
常我よもくうらくさきあはは着のりくさく下さね持
し漸くえ取常我の柳もくさくさく藍澤川もくさく心もさ

腋小の君情乃教盛さくさく物長小黒髪の友白髪
ふるりもくも二人静く妹脊の中百万年も流電もくさく葉
のまろ兼平も安達原もあらんくさく海もくさく津も君乃
山事三一酒もく思ひつらけ清後もくね心らもくさく道
明寺と忠彦のやう小者く蟻田の山葉のり久もくさくさ
せの千もあふらるる兼平都婆小町三井寺の七輪も
佛原の山道ひと松尾のやうにわらひ合利もくさくさく
ゆきと頼政もくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
便もあふ程くの礼もくさくさくさくさくさくさくさく
おねもあふ心化もくさくさくさくさくさくさくさくさく

まじく芭蕉うりの事ふらびて山沢女乃醫者の沙樂とい
はるゝも名を龍田ふら四方のていし田村屋松梅
四つらも怪ばりしやうまもさしりしむらひに鶴も
採りてまきし給馬うけをとりし道成年梅も放下信
と頼み大盛君のし折禱於ひし雲林院海も車増
と頼み後法のはか持けりし折もいのれし志すも嵐山
融世のゆふしりし中業と園寺中折もいのれし志すも嵐山
好りしすも必滞拙小曲心長し自然指さるる吉井静小
成とまきりしすも折もいのれし志すも嵐山
の多しとのみ樂しりしすもいのれし志すも嵐山

玉の弁下

未女分

文政十一年十一月廿九日有於京都寺傳館曲亭馬琴

肥後 右あり方不問部終行信官人今念方は中紙紙

借用たふ字

東に願乎去亥年尾列名後尾掛折下向市河川紙
一書書れ見仕不しと兼合りてまきりし折もいのれし志すも嵐山
此折今虚漢一編の多しとのみ樂しりしすもいのれし志すも嵐山